

2024年3月期 決算説明会

2024年5月29日
綜研化学株式会社
(証券コード：4972)

- 1. 中期経営計画「Advance 2025」の進捗**
2. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
3. 2024年3月期 連結決算
4. 2025年3月期 業績見通し

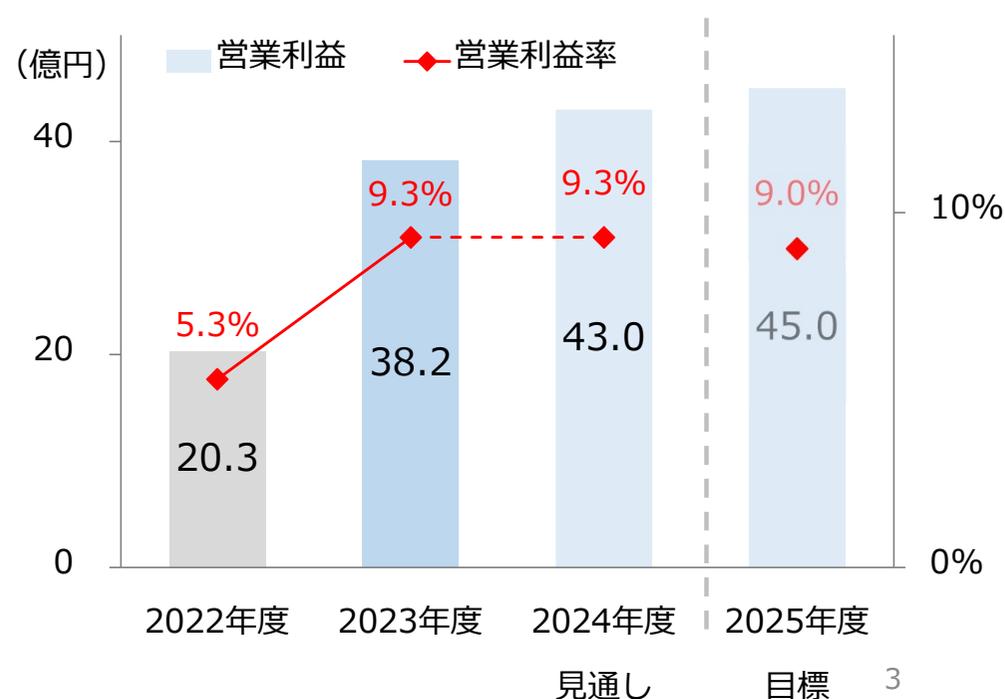
2024年3月期 業績総括及び中期経営計画数値目標の進捗



- ✓ 売上高は、液晶ディスプレイ用粘着剤の販売が2023年度第4四半期に需給調整の影響を受けたものの、2024年度は需要回復・拡大し、数値目標に対して順調に進捗する見通し
- ✓ 営業利益は、原材料価格上昇に加え、ユーティリティコストなどの上昇が見込まれるため、価格改定やコストダウンなどの徹底により利益率維持を図る
- ✓ 2024年1月に発生したランサムウェア被害による業績影響は限定的

(億円)

	2022年度	2023年度	2024年度 見通し	2025年度 目標
ケミカルズ	339	375	420	455
粘着剤	222	268	301	300
微粉体	25	25	28	35
特殊機能材	27	25	27	30
加工製品	64	55	64	90
装置システム	41	37	40	45
合計	381	413	460	500



中期経営計画「Advance 2025」概要



基本方針

- ・収益基盤の維持・拡大と収益性の改善によるキャッシュ創出力向上
- ・事業ポートフォリオの変革に向けた新たな事業領域の創出に資源を積極投入

重点施策

◆ 既存事業による安定収益基盤の拡大と収益性改善

- ・中国液晶ディスプレイ関連の需要拡大に応じた生産・供給体制の強化と合理化推進
- ・自動車、情報・電子デバイスなど成長分野での新たなニーズ獲得に向けた、販売体制の再編、開発テーマ対応力の強化、環境対応製品の拡充

◆ 事業構造改革に向けた次世代事業領域の創出

- ・新たな事業領域創出に向けた、非アクリル系製品の開発、バイオマス材料・製品開発の基盤技術の確立、粘着・塗工技術を応用した新技術・製品開発の推進、新規事業開発体制の強化
- ・生産性の向上、新製品量産化に向けた、革新的な生産プロセス開発の推進
- ・中国に次ぐ新たな海外事業地域の探索と推進体制の構築

◆ サステナビリティ経営の推進

- ・脱炭素化・循環型社会への貢献、安全・品質管理の高度化、人権尊重への対応など、サステナビリティ活動推進体制の整備・構築
- ・グローバル人材・高度専門人材の育成・確保、多様な人材の活躍・成長を促す人事制度改革
- ・環境変化、事業戦略を踏まえたリスク管理・コンプライアンスの強化
- ・業務改革に向けたITシステムの基盤整備とデジタル技術の導入推進

中期経営計画「Advance 2025」の進捗状況



◆ 既存事業による安定収益基盤の拡大と収益性改善

中国液晶ディスプレイ関連の需要拡大に応じた収益性改善

- ・液晶ディスプレイ用粘着剤の設備増強3基のうち2基が稼働を開始。今年度は1基が完成し生産キャパは約3倍へ拡大
安定供給体制の確保と最新設備による生産性向上、物流等の合理化を進め一層のコスト低減を図る

成長分野での新たなニーズ獲得に向けた製品開発

- ・次世代自動車向け製品の新規採用を獲得、販売伸長している情報電子分野向け材料のさらなる拡販に注力
- ・バイオマス材料を使用した製品や有機溶剤低減品、再生熱媒体油など環境配慮型製品の販売比率が向上

◆ 事業構造改革に向けた次世代事業領域の創出

新材料技術の基盤構築、新規事業創出、新プロセス開発

- ・生合成技術及び非アクリル系材料、新機能性フィルム製品の開発に向けた、新たな技術基盤の確立を推進
- ・外部連携によるがん検出チップの共同研究契約、抗菌抗ウイルス剤のプロモーション展開など、新規事業創出を推進
- ・革新的生産プロセス・非アクリル系材料のプロセス開発を推進。既存設備の一部生産自動化を実現

新たな海外事業展開

- ・インドにおける粘着剤販売が伸長、加工製品の展開も視野に入れ調査継続。東南アジアでは販売強化を図る

◆ サステナビリティ経営の推進

- ・グループ経営理念の制定、マテリアリティの特定などサステナビリティ経営の推進
- ・環境変化を踏まえ、グループコンプライアンスを強化
- ・情報セキュリティ及び情報インフラの整備・強化を図り、業務改革のため新たな基幹システムの導入を推進
- ・製品開発期間短縮を目指しマテリアルズ・インフォマティクス(MI)を活用、設計予測モデルの導入を推進

1. 中期経営計画「Advance 2025」の進捗
- 2. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応**
3. 2024年3月期 連結決算
4. 2025年3月期 業績見通し

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応



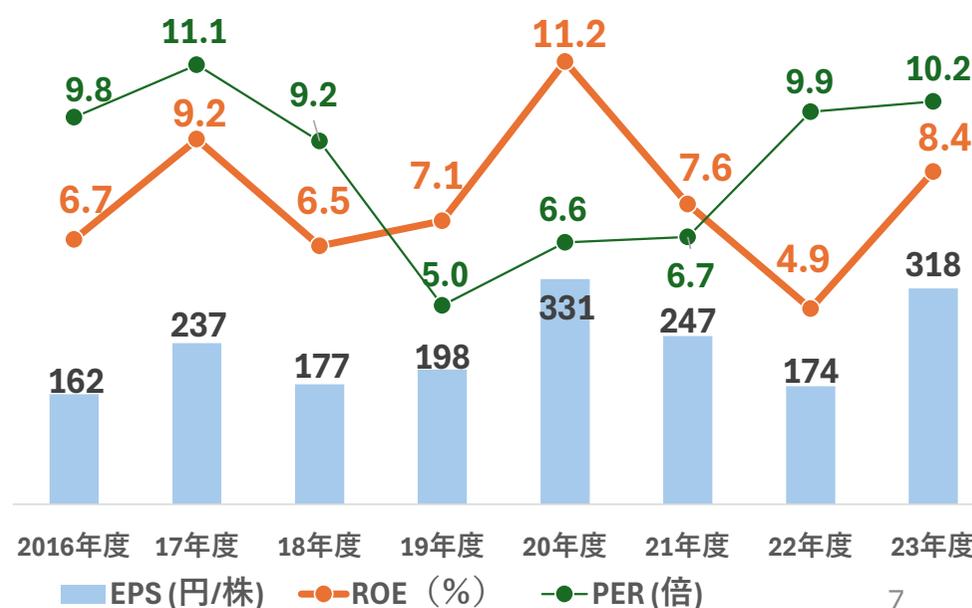
1. 現状分析・認識

- ◆ 低PBRの要因は、事業の拡大が着実に進んでいるが、各年度の利益変動幅が大きく、継続的に株主資本コストを上回るROE水準を確保できていないことにあると認識
- ◆ ROEの変動要因は、原材料価格や液晶ディスプレイ関連需要の変化に影響を受けやすい利益体質にあり、利益体質強化による資本収益性の改善が重要な経営課題
- ◆ 業績変動リスクから成長性・将来性に対する評価が得られず、PERが低位・不安定な推移

PBR・株価・BPSの推移



ROE・PER・EPSの推移



2. 資本収益性の改善に向けた方針・目標

改善に向けた取組み方針・目標

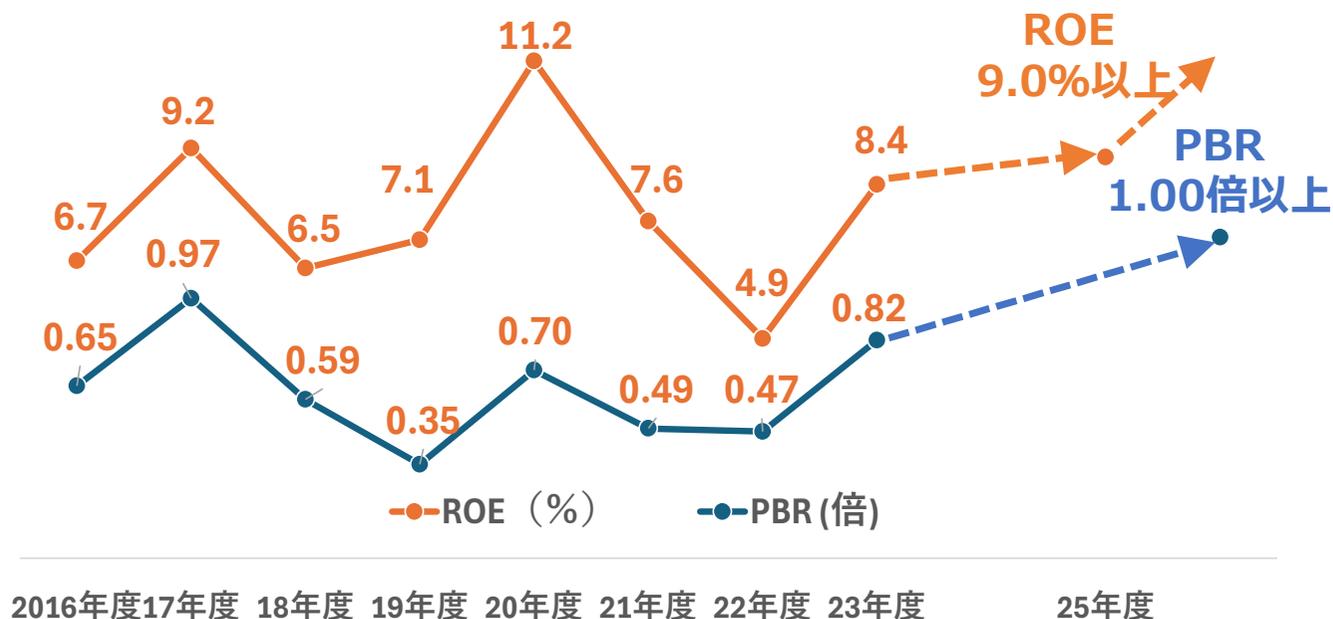
中期経営計画 Advance2025 で掲げたROE目標「2025年度9%以上」達成し、
更には、事業ポートフォリオ改革を推進し、中長期的な資本収益性の向上と
株式市場評価の改善により、PBR1.0倍以上を実現する

2025年度目標

ROE：9.0%以上
ROA：7.0%以上
(株主資本コスト：8~9%想定)

売上高：500億円
営業利益：45億円

投資総額：200億円
(成長投資枠 70億円)



3. 資本収益性の改善に向けた取り組み – 中期経営計画 Advance 2025 –

収益力強化 収益性向上	<ul style="list-style-type: none">・液晶ディスプレイ関連分野でのトップシェアの維持・拡大・成長分野での新規ニーズの獲得と環境対応製品の拡充・原材料・エネルギー価格や物流費、人件費などコスト上昇に応じた適正販売価格の形成・生産プロセスの自動化、生産・供給体制の最適化など合理化推進
事業構造改革推進	<ul style="list-style-type: none">・次世代事業領域の創出等による特定事業分野・地域への依存度低減・バイオマス材料・製品など次世代製品開発の技術基盤確立・新規事業開発・推進体制の強化・革新的な生産プロセス開発の推進
成長投資 株主還元	<ul style="list-style-type: none">・収益力強化や事業構造改革に向けた成長投資へ積極的に資金投下する・配当性向30%を目安に安定かつ継続的な配当水準の維持・向上に努め、中長期的には資本収益性の向上によるDOE3%を目指す
IR活動 サステナビリティ経営	<ul style="list-style-type: none">・株主・投資家等との対話促進や情報開示の拡充など、株式流動性の改善に向けた施策の検討・推進・サステナビリティ経営の推進とマテリアリティ・目標等の情報開示

1. 中期経営計画「Advance 2025」の進捗
2. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
- 3. 2024年3月期 連結決算**
4. 2025年3月期 業績見通し

2024年3月期 業績



- ✓ 売上高は、第4四半期に需要回復が進む液晶パネル業界での在庫調整があったものの、中国市場を中心に粘着剤の販売が伸長し、前期を大幅に上回る
- ✓ 営業利益は、粘着剤の増産効果にくわえ、コスト削減や生産合理化、採算是正などにより、収益改善が進み大幅な増益

(百万円)

	2023年3月期	2024年3月期	前期比	
			増減	増減率 (%)
売上高	38,129	41,318	3,188	8.4
営業利益	2,034	3,828	1,795	88.2
営業利益率 (%)	5.3%	9.3%	4.0pt	—
経常利益	2,169	3,909	1,741	80.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,436	2,629	1,192	83.0
期末為替レート (円/人民元)	19.1	19.9	0.8	—

2024年3月期 セグメント別売上高



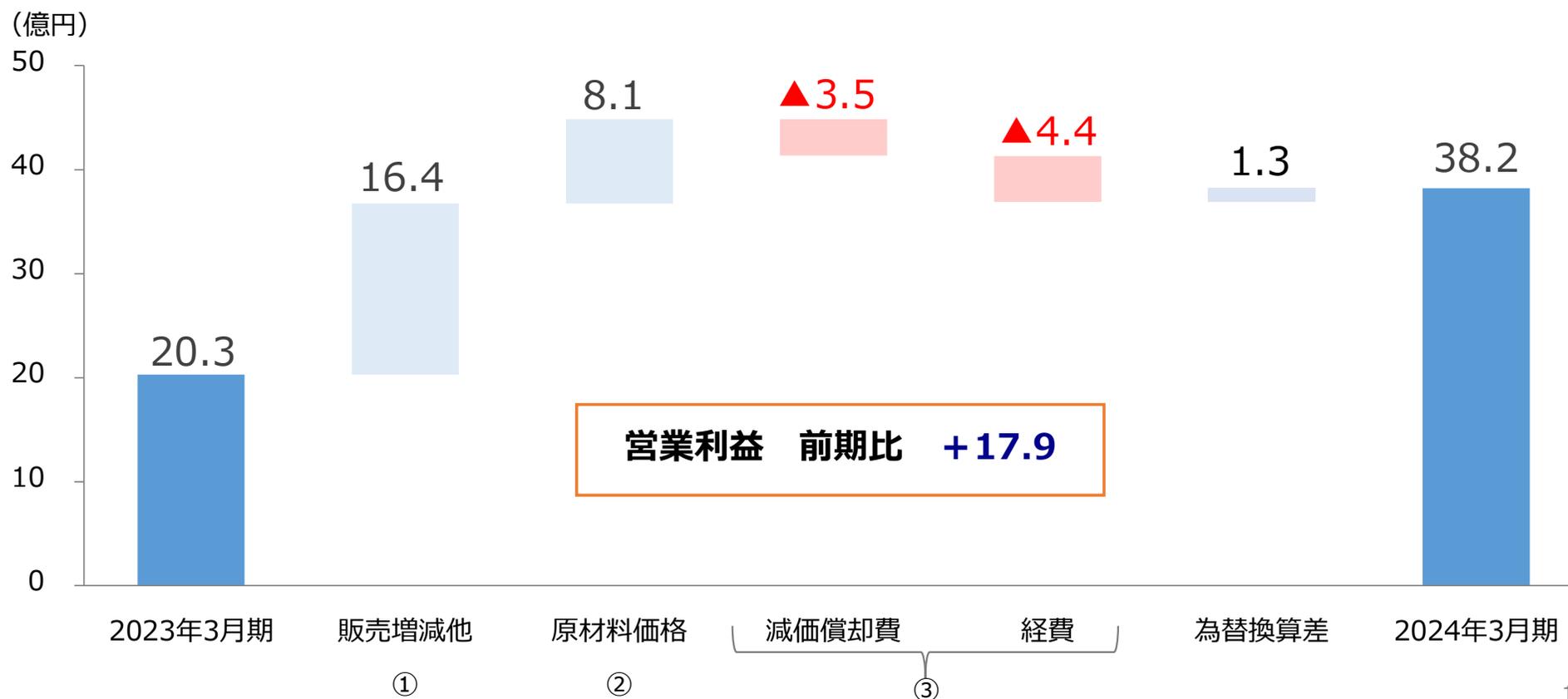
- ✓ ケミカルズ : 加工製品等の販売がスマートフォンなど情報・電子分野での需要減少により落ち込んだものの、粘着剤の大型液晶パネル用途の需要回復により大幅増収
- ✓ 装置システム : 設備関連の受注は堅調に推移したものの、熱媒体油の需要低迷により減収

(百万円)

	2023年3月期	2024年3月期	前期比	
			増減	増減率 (%)
ケミカルズ	33,951	37,533	3,582	10.6
粘着剤	22,238	26,887	4,649	20.9
微粉体	2,524	2,545	21	0.8
特殊機能材	2,776	2,595	▲180	▲6.5
加工製品	6,411	5,504	▲907	▲14.2
装置システム	4,178	3,784	▲394	▲9.4
合計	38,219	41,318	3,188	8.4

2024年3月期 営業利益分析

- ① 加工製品が減益となるも、液晶関連の粘着剤の増販や採算是正効果により増益
- ② 下期に原材料価格が上昇傾向に転じたものの、通期では前期水準を下回る
- ③ 中国工場の設備稼働等に伴う減価償却費、人件費や販売増に伴う経費が増加



貸借対照表の状況



- ✓ 総資産：在庫等が減少するも、現預金等や売上債権、海外子会社資産の為替換算額が増加
- ✓ 負債：借入金や退職給付債務が減少するも、仕入債務や契約債務などが増加
- ✓ 純資産：利益剰余金や為替換算調整勘定などが増加

(百万円)

	2023年 3月末	2024年 3月末	増減		2023年 3月末	2024年 3月末	増減
流動資産	27,288	30,322	3,033	負債	17,298	17,847	549
現預金等	10,013	13,076	3,063	仕入債務	7,576	8,082	505
売上債権	10,810	11,678	867	借入金	4,534	4,266	▲268
棚卸資産	5,872	5,313	▲558	退職給付に係る 債務	1,772	1,479	▲292
その他	592	253	▲338	その他	3,413	4,019	605
固定資産	19,986	20,260	273	純資産	29,977	32,735	2,758
有形固定資産	18,540	18,793	252	株主資本	27,249	29,204	1,955
無形固定資産	273	328	54	その他の包括利益 累計額	2,727	3,530	802
その他	1,171	1,138	▲33				
資産合計	47,275	50,582	3,307	負債・純資産合計	47,275	50,582	3,307

期末為替レート
(円/人民元)

19.1

19.9

キャッシュ・フローの状況



- ✓ 営業CF : 主に税金等調整前当期純利益と減価償却費により増加
- ✓ 投資CF : 中国子会社での生産設備投資などにより減少
- ✓ 財務CF : 配当金の支払や借入金の返済などにより減少

(百万円)

	2023年3月期	2024年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,090	6,397
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲3,604	▲2,424
フリー・キャッシュ・フロー	▲1,513	3,972
財務活動によるキャッシュ・フロー	87	▲1,079
現金及び現金同等物に係る換算価額	236	170
現金及び現金同等物の増減額	▲1,189	3,063
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,013	13,076

1. 中期経営計画「Advance 2025」の進捗
2. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
3. 2024年3月期 連結決算
4. **2025年3月期 業績見通し**

2025年3月期 業績見通し



- ✓ 売上高 : 液晶ディスプレイ関連の需要拡大が進む中国市場での大幅増収を見込む
- ✓ 営業利益 : 原材料・物流費・人件費等のコスト上昇、研究・技術開発や新規事業等での経費増を見込むものの、採算是正・合理化などの収益改善により目標営業利益率を確保

(百万円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 見通し	前期比	
			増減	増減率 (%)
売上高	41,318	46,000	4,681	11.3
営業利益	3,828	4,300	471	12.3
営業利益率 (%)	9.3%	9.3%	0.0pt	—
経常利益	3,909	4,100	190	4.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,629	2,700	70	2.7
期末為替レート (円/人民元)	19.9	20.0	0.1	—
1株当たり配当金 (円)	95.0	95.0	0.0	0.0

2025年3月期 セグメント別売上高

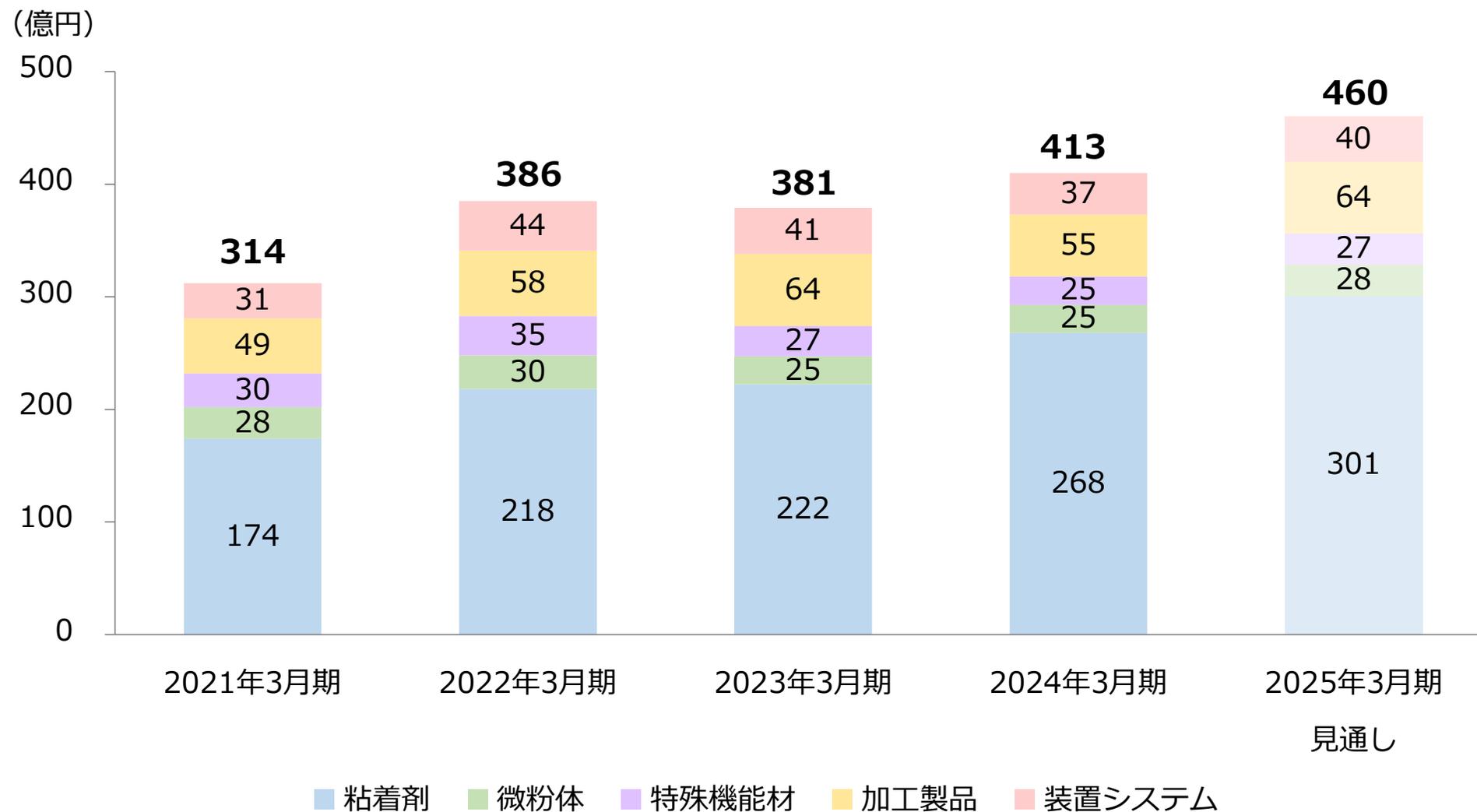


- ✓ ケミカルズ : 液晶ディスプレイ用途の粘着剤や自動車用途での加工製品など
中国市場での大幅増収を見込む
- ✓ 装置システム : 前期末までの受注状況、主要顧客の設備投資動向などから、
熱媒体油の需要回復を見込み増収

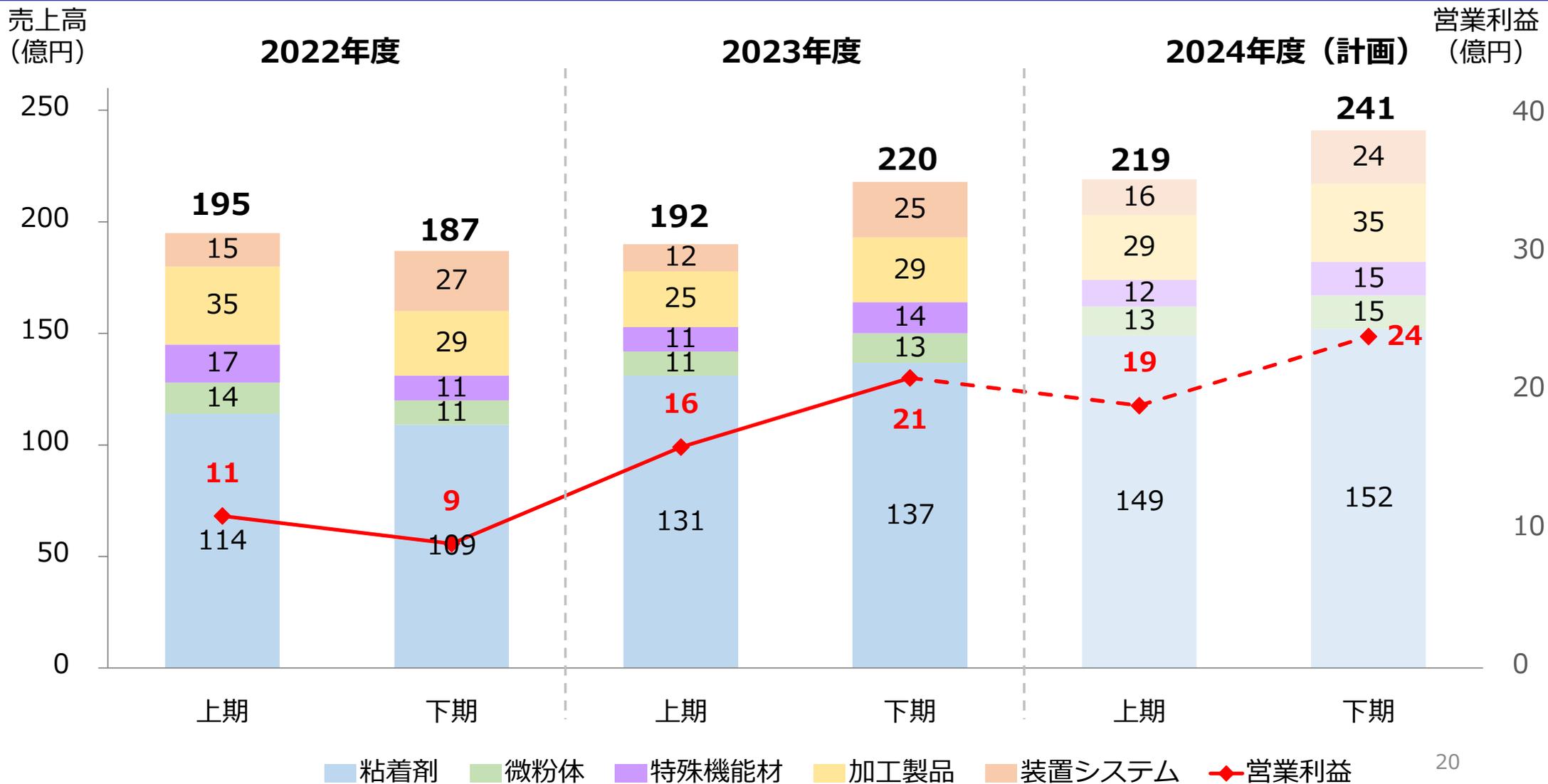
(百万円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 見通し	前期比	
			増減	増減率 (%)
ケミカルズ	37,533	42,000	4,466	11.9
粘着剤	26,887	30,100	3,212	11.9
微粉体	2,545	2,800	254	10.0
特殊機能材	2,595	2,700	104	4.0
加工製品	5,504	6,400	895	16.3
装置システム	3,784	4,000	215	5.7
合計	41,318	46,000	4,681	11.3

商品ユニット別売上高推移

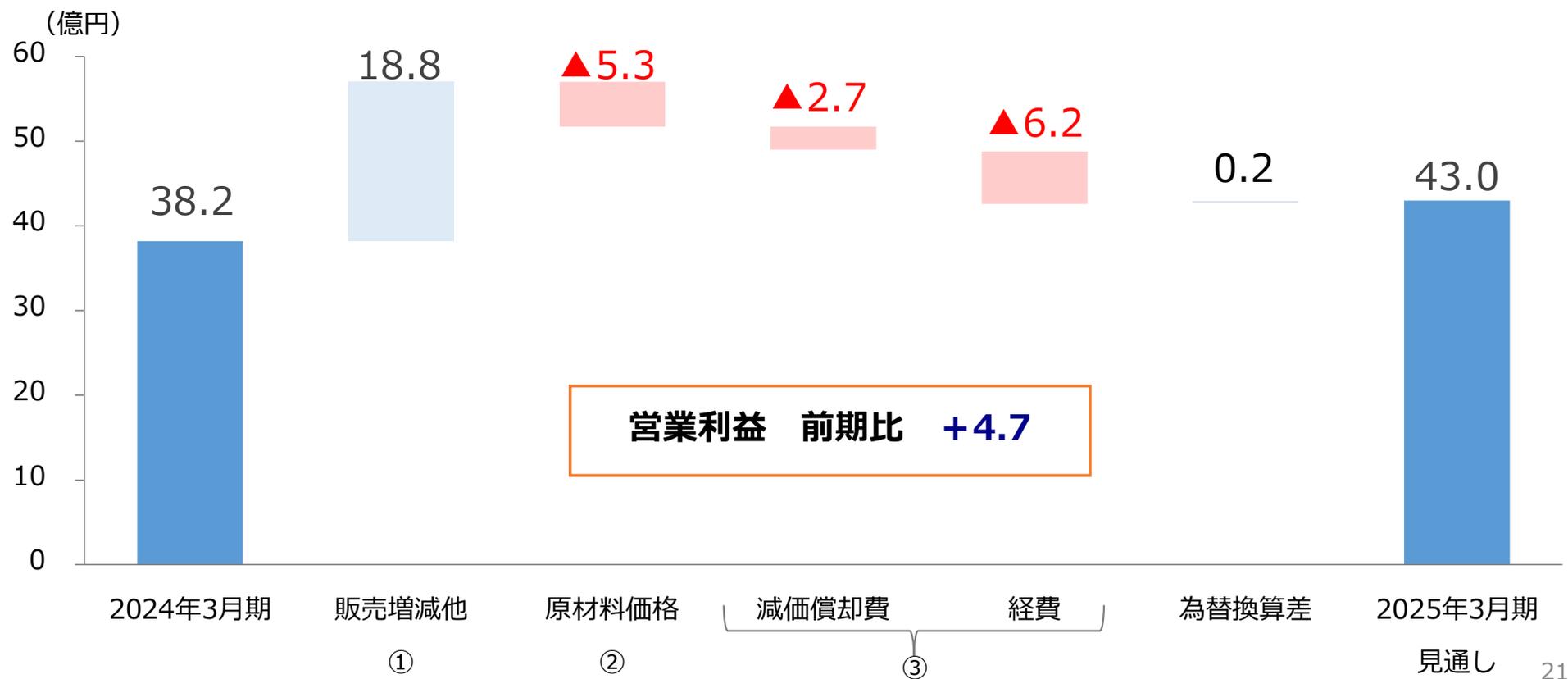


2025年3月期 業績見通し（半期推移）

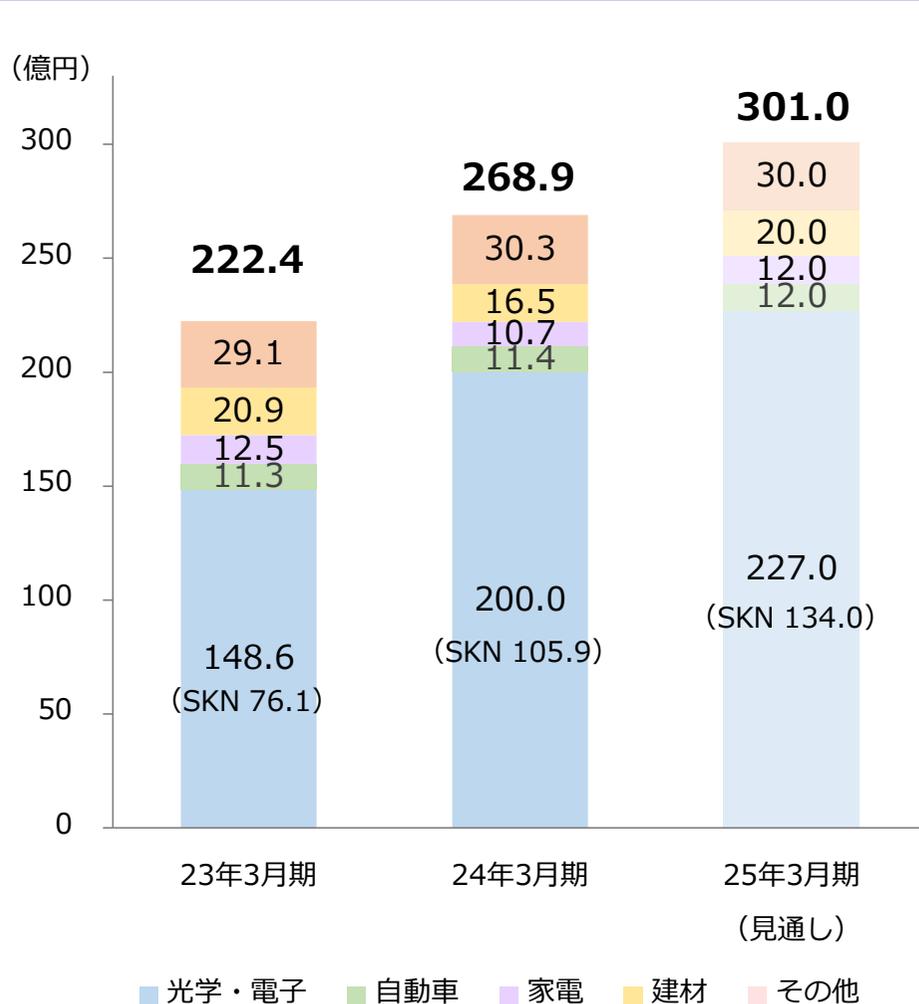


2025年3月期 営業利益分析

- ① 液晶関連の粘着剤の増販効果や採算是正等による収益改善を見込む
- ② 原材料価格は、前期下期以降の上昇基調が継続
- ③ 中国設備増強に伴う減価償却費や販売経費、技術開発・新規事業開発費等の増加を見込む



粘着剤



※ SKN：中国子会社 綜研高新材料（南京）

(億円)

	24年3月期 (実績)	25年3月期 (見通し)	増減
光学・電子	200.0	227.0	27.0
自動車・建材他	68.9	74.0	5.1
合計	268.9	301.0	32.1

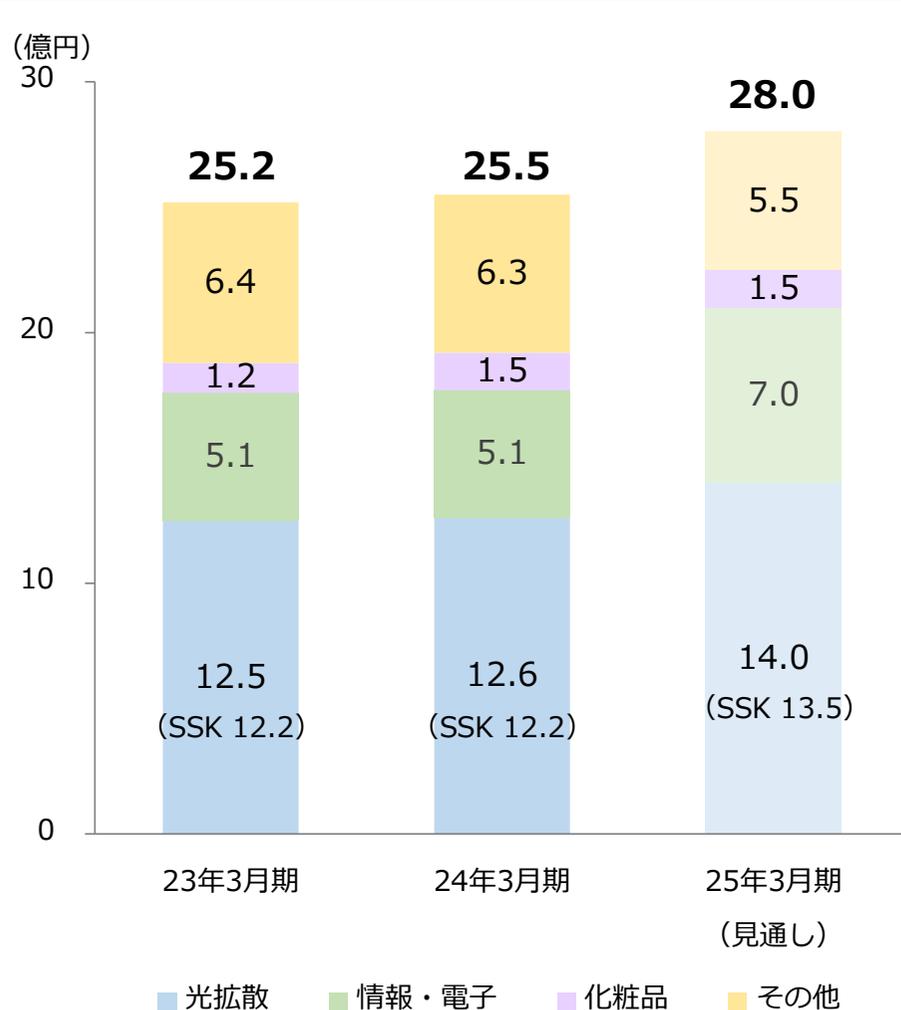
2024年3月期の概況

- 液晶パネル市況の回復とシェアアップにより、偏光板・周辺用途の販売数量が大幅に増加
- 自動車・建材・家電など一般用途の販売数量は、市況低迷により前期並みに留まる

2025年3月期の取り組み

- 中国南京工場の増産設備の本格稼働、安定生産・供給体制の構築、生産・物流合理化の推進
- 原材料に加え、エネルギー・資材価格、物流費、人件費等のコスト上昇に応じた価格改定の実施
- バイオマス・非アクリル系粘着剤など、環境配慮型新製品の開発、用途・顧客開拓の推進

微粉体



※ SSK：中国子会社 綜研化学（蘇州）

(億円)

	24年3月期 (実績)	25年3月期 (見通し)	増減
光拡散	12.6	14.0	1.4
情報・電子 他	12.9	14.0	1.1
合計	25.5	28.0	2.5

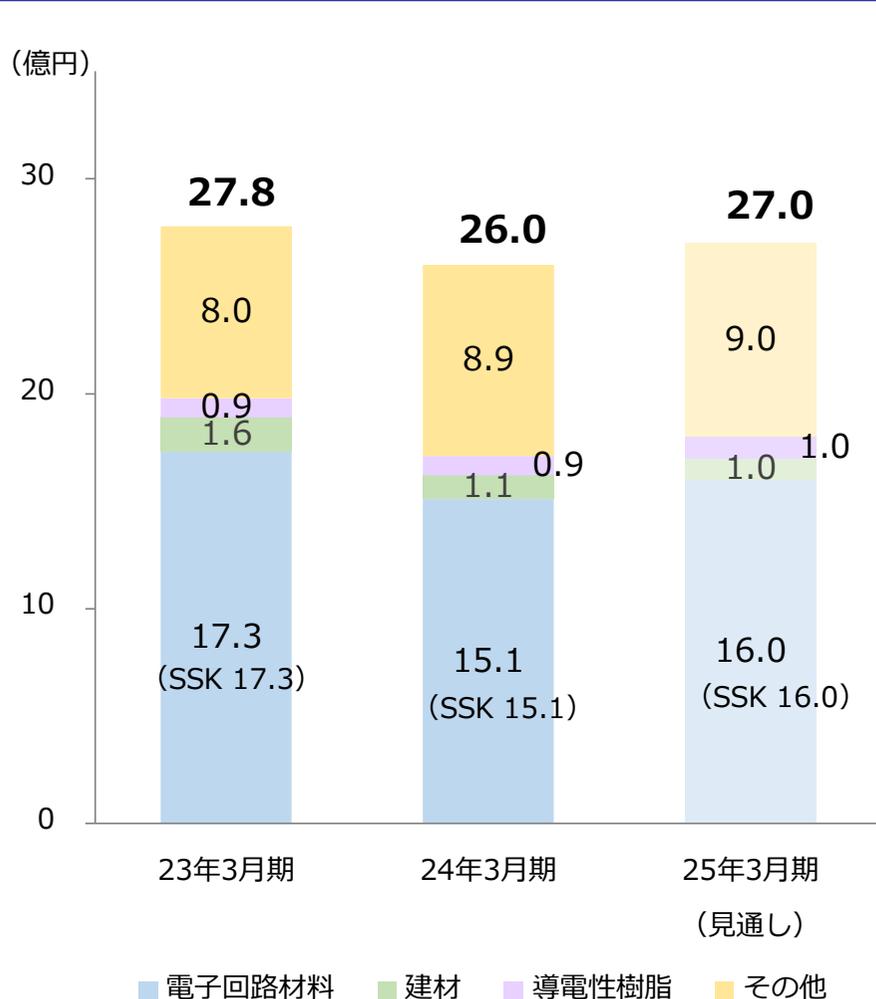
2024年3月期の概況

- 回復傾向にあった光拡散用途の需要が4Qに減速も、生産・供給体制の最適化等により収益性は改善
- 情報・電子分野は、MLCC等の電子部品関連の販売が増加したものの、トナー・塗料関連の販売が低迷

2025年3月期の取り組み

- 光学フィルム用途等での高付加価値製品の顧客開拓
- 情報・電子分野での新規案件の立上げ、中国市場での造孔材用途など電子部品関連の拡販
- 化粧品用途での生分解性粒子など、環境配慮型製品による新規用途・顧客開拓

特殊機能材



※ SSK：中国子会社 綜研化学（蘇州）

(億円)

	24年3月期 (実績)	25年3月期 (見通し)	増減
電子回路材料	15.1	16.0	0.9
建材 他	10.9	11.0	0.1
合計	26.0	27.0	1.0

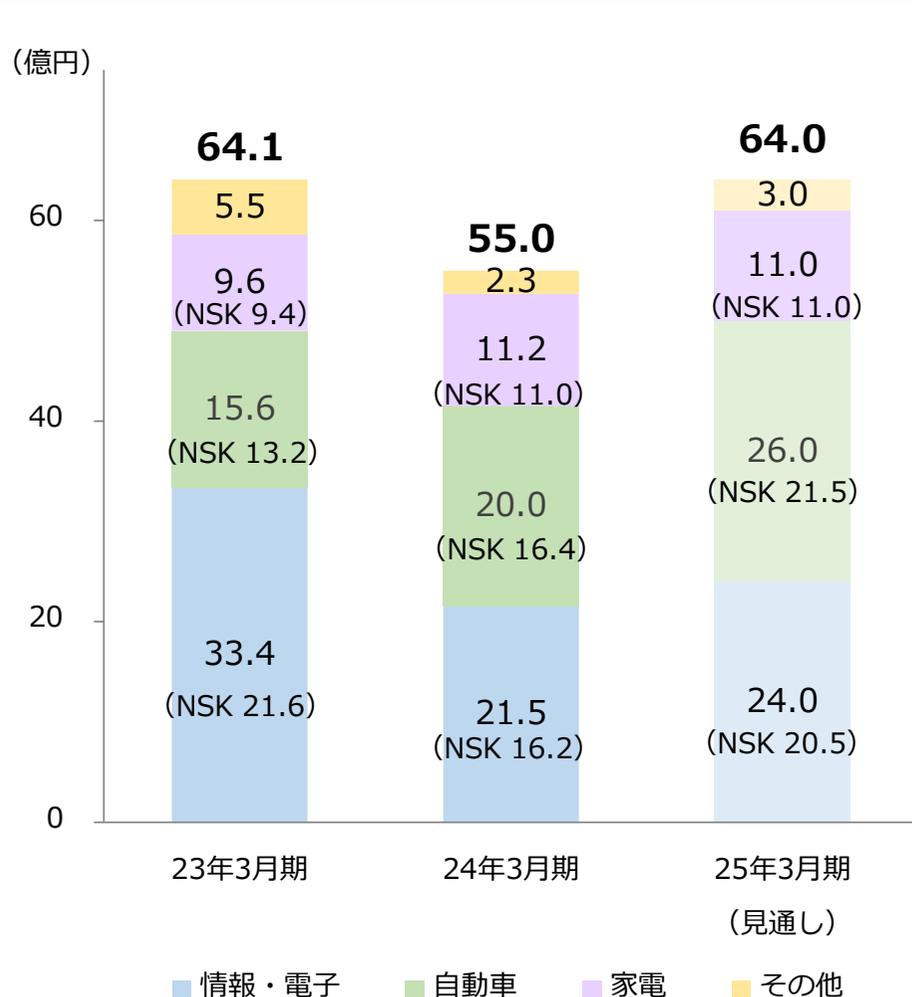
2024年3月期の概況

- 中国スマートフォン市況低迷により、電子回路材料用途の販売数量が大幅減も、採算是正により利益確保
- 建材・トナー用途の販売減を、収益性の高い電子部品・光学用途の増販によりカバー

2025年3月期の取り組み

- 中国電子部品材料分野での導電性樹脂・焼成樹脂の販売拡大、顧客ニーズ探索と新製品開発に注力
- 植物由来の抗菌・抗ウイルス材料等の有望市場・用途の調査継続（新規事業）

加工製品



※ NSK：中国子会社 寧波綜研化学

(億円)

	24年3月期 (実績)	25年3月期 (見通し)	増減
情報・電子	21.5	24.0	2.5
自動車	20.0	26.0	6.0
家電 他	13.5	14.0	0.5
合計	55.0	64.0	9.0

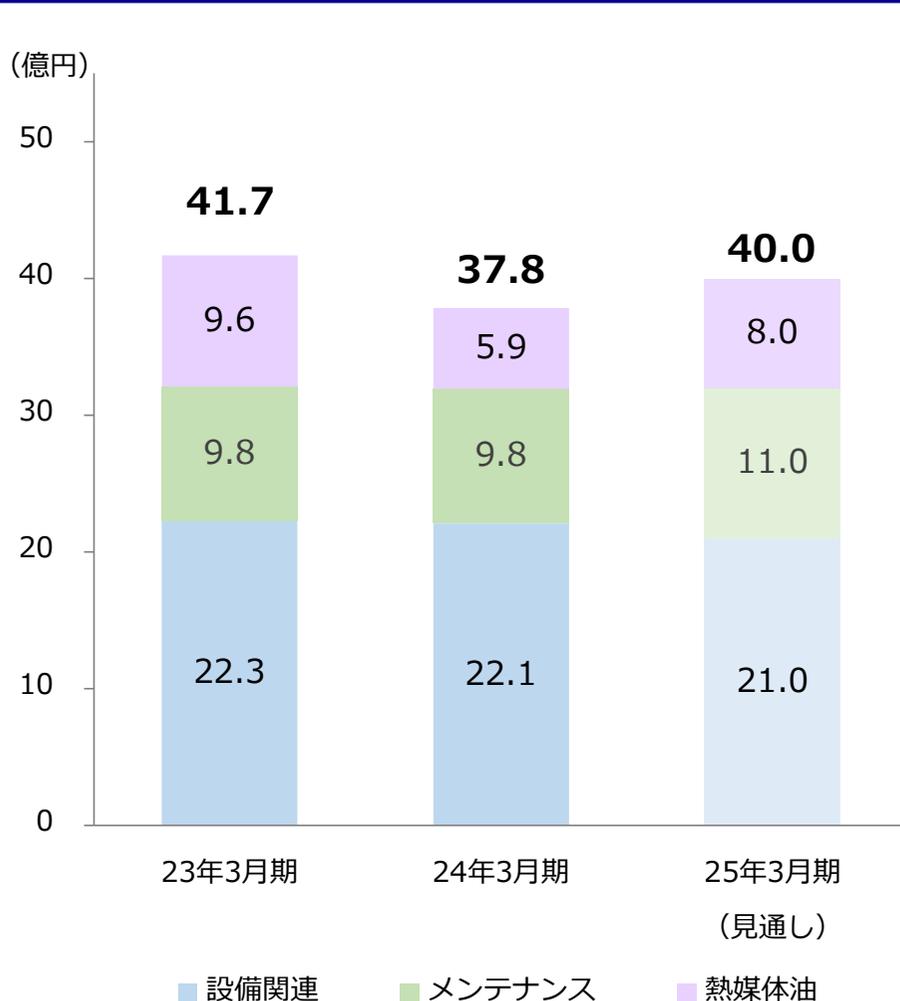
2024年3月期の概況

- 情報・電子分野での中国スマートフォン、電子表示用途の需要減少により大幅減収
- 自動車分野は、中国市場での内装・空調用途の需要回復、静音タイヤ用途などでの新規採用により増販

2025年3月期の取り組み

- 中国EVメーカーでの内装・タイヤ・モニター・センサーなど新規用途の採用拡大
- スマートフォン向け加飾カバー用途での採用拡大、高機能を付与した機能性フィルムなど新製品の開発・展開
- インド、東南アジアなど未開拓地域の市場調査推進

装置システム



(億円)

	24年3月期 (実績)	25年3月期 (見通し)	増減
設備関連	22.1	21.0	▲1.1
メンテナンス・熱媒体油	15.7	19.0	3.3
合計	37.8	40.0	2.2

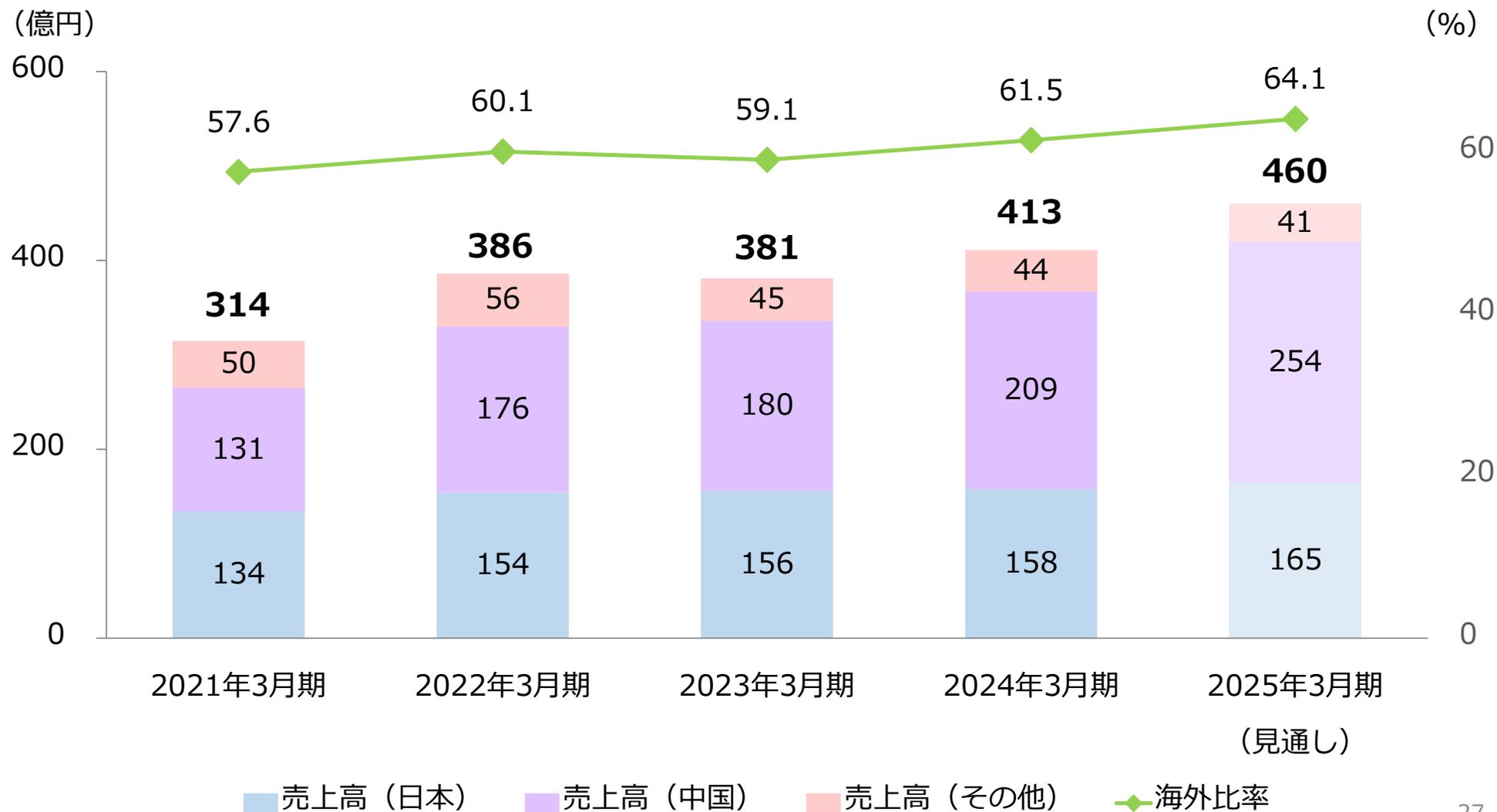
2024年3月期の概況

- 設備関連の受注は堅調を維持し、前期並みの売上確保
- メンテナンスは診断サービス等の拡販が進むも、前期並みに留まり、熱媒体油は需要低迷により減収

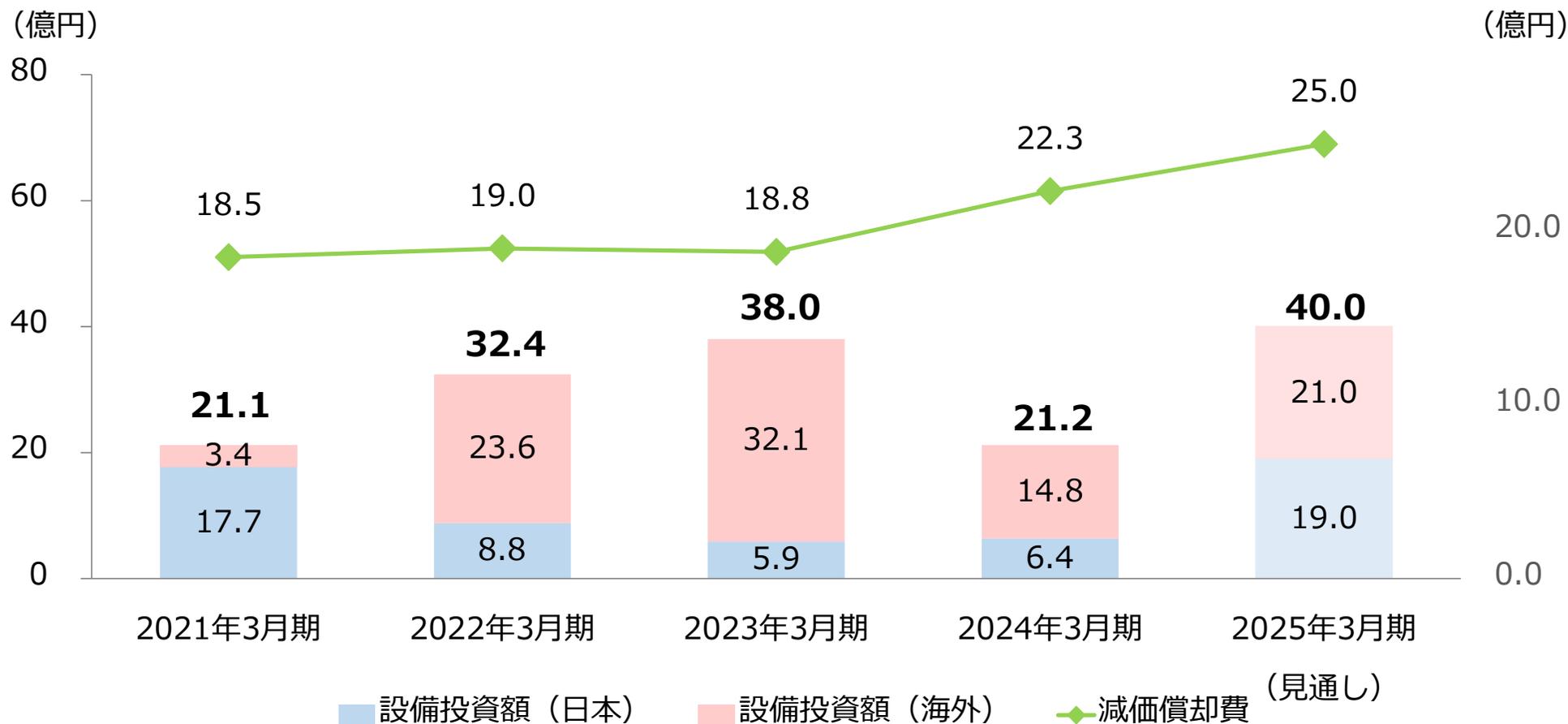
2025年3月期の取り組み

- 独自の設備診断サービスの拡充によるメンテナンス事業の強化・拡大
- Co2削減効果の第三者認証を得た再生熱媒体油や環境省LD-Tech認証を得た熱媒ボイラーなど環境対応製品の販売拡大

海外売上高推移



設備投資・減価償却



主な設備投資 (2025年3月期 見通し)

生産設備増強・合理化・更新 17億円、安全・環境対策 7億円、IT関連 8億円、研究・技術開発他 5億円

(注) 本資料中の予想は、決算発表日現在において、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

<お問い合わせ先>

綜研化学株式会社 IR・広報室

T E L 03-3983-3268

E-mail investor.b5p.relations@sokenchem.com

U R L <https://www.soken-ce.co.jp>

参考資料

中期経営計画「Advance 2025」の概要

ビジョン

独自の技術・製品開発力を磨き、環境・社会課題の解決を志向した事業領域の創出と事業構造の変革により新たな成長軌道を築き、社会の発展とともに成長し続ける企業集団を目指す

Advance 2025 (2023~25年度 中期経営計画)

コロナ禍で激変した経営環境に新たな成長の機会を見出し、2030年に目指す姿(ビジョン)の実現に向けて前進する1stステップ

基本方針

収益基盤の維持・拡大と収益性の改善によりキャッシュ創出力を高め、事業ポートフォリオの変革に向けた新たな事業領域の創出に資源を積極投入し、安定的な利益成長の経営基盤を構築する

重点施策

- ◆ 既存事業による安定収益基盤の拡大と収益性改善
- ◆ 事業構造改革に向けた次世代事業領域の創出
- ◆ サステナビリティ経営の推進

◆ 既存事業による安定収益基盤の拡大と収益性改善

- 中国液晶ディスプレイ関連の需要拡大に応じた生産・供給体制の強化と合理化推進
- 自動車、情報・電子デバイスなど成長分野での新たなニーズ獲得に向けた、販売体制の再編、開発テーマ対応力の強化、環境対応製品の拡充

◆ 事業構造改革に向けた次世代事業領域の創出

- 新たな事業領域創出に向けた、非アクリル系製品の開発、バイオマス材料・製品開発の基盤技術の確立、粘着・塗工技術を応用した新技術・製品開発の推進、新規事業開発体制の強化
- 生産性の向上、新製品量産化に向けた、革新的な生産プロセス開発の推進
- 中国に次ぐ新たな海外事業地域の探索と推進体制の構築

◆ サステナビリティ経営の推進

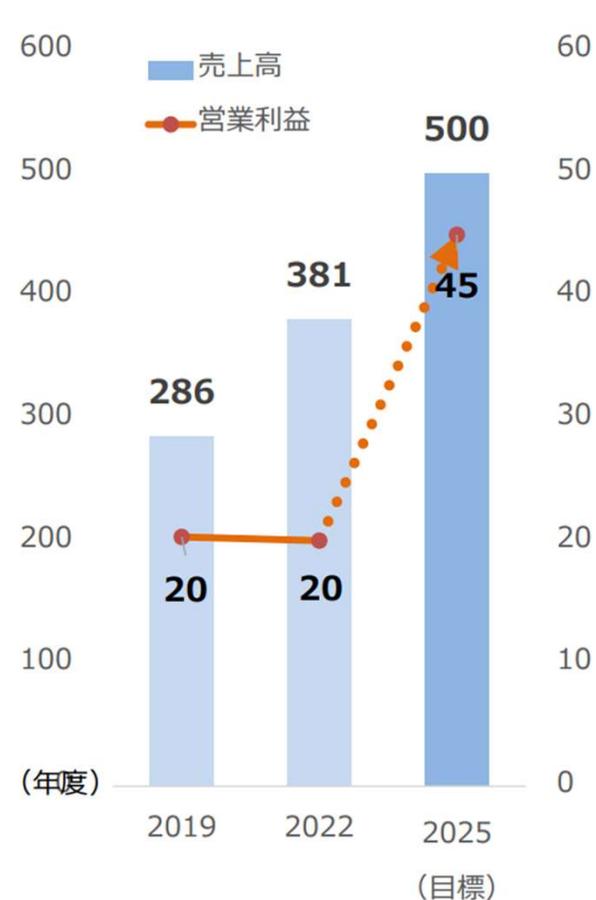
- 脱炭素化・循環型社会への貢献、安全・品質管理の高度化、人権尊重への対応など、サステナビリティ活動推進体制の整備・構築
- グローバル人材・高度専門人材の育成・確保、多様な人材の活躍・成長を促す人事制度改革
- 環境変化、事業戦略を踏まえたリスク管理・コンプライアンスの強化
- 業務改革に向けたITシステムの基盤整備とデジタル技術の導入推進

Advance 2025 : 数値目標



売上高・利益目標

	2022年度 実績	2025年度 目標	増減
売上高	381	500	+119
営業利益	20	45	+25
営業利益率	5.3%	9.0%	+3.7pt
ROA	4.7%	7%以上	+2pt以上
ROE	4.9%	9%以上	+4pt以上



投資計画

	(億円)
2023~2025年度 投資総額	200
生産能力増強、設備維持・更新	70
研究・技術開発	35
情報インフラ、環境整備	25
成長投資枠 新規事業・技術開発・海外新規開拓他	70

Advance 2025 : セグメント別売上高



◆ ケミカルズ

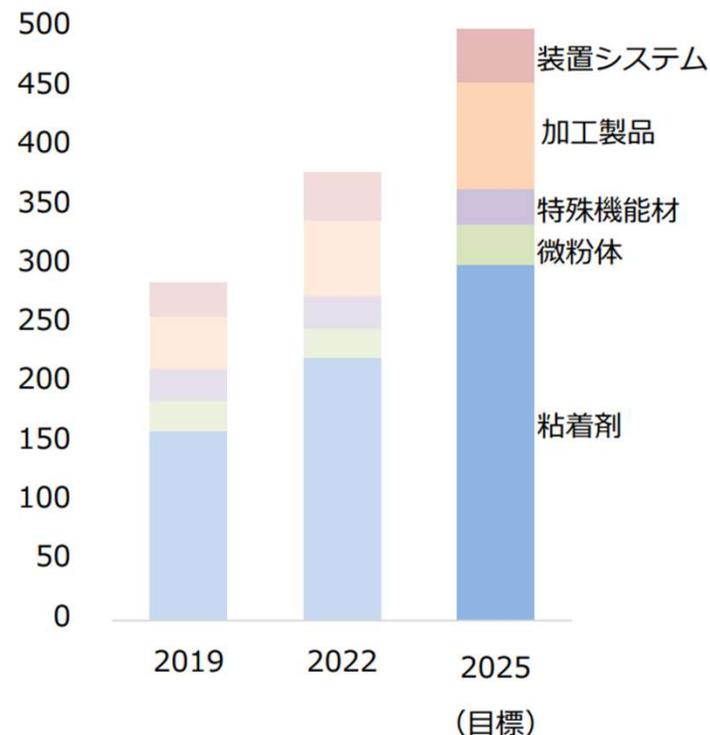
- 中国液晶ディスプレイ分野での高シェア維持・拡大、生産性向上による利益改善
- 環境対応製品等の高付加価値製品による新規用途・顧客開拓
- 自動車・情報・電子デバイス分野など中国市場での新規製品の販売・開発体制強化

◆ 装置システム

- メンテナンス・熱媒体油を主軸とした事業構造への転換による収益の安定化、収益性の向上

	2022年度	2025年度 目標	増減
ケミカルズ	339	455	+116
粘着剤	222	300	+78
微粉体	25	35	+10
特殊機能材	27	30	+3
加工製品	64	90	+26
装置システム	41	45	+4
合計	381	500	+119

(億円)



Advance 2025 : 事業ポートフォリオ改革推進



事業ポートフォリオ改革

安定的な利益成長を実現するために、原材料価格や液晶ディスプレイ需要など業績変動リスクに強い事業構造への転換が不可欠

既存事業の利益成長・最大化を追求するとともに、環境変化に対応する新技術・製品、新規事業により次世代の事業領域を創出する

New Value 2022

収益基盤の拡大
新規領域の探索

設備投資
91億円

Advance 2025

既存事業の安定収益基盤拡大と収益性追求

- ▶ 中国事業の競争力強化
- ▶ 環境対応製品の拡充

次世代事業領域創出の基盤構築

- ▶ 次世代製品の技術基盤確立
- ▶ 新規事業開発体制の強化
- ▶ 革新的生産プロセス開発の推進
- ▶ 新たな海外事業展開の探索

設備投資 130億円 (生産・開発・IT他)

成長投資枠 70億円 (技術獲得・新規事業他)

ビジョン

環境・社会課題の
解決を志向した
事業領域の創出

環境変化に強い
事業構造への転換

- ▶ 特定事業分野・
地域等への依存低減

Advance 2025 : 資本政策

- ◆ 短期的な業績変動に関わらず、既存事業の競争力強化と新たな事業領域の創出に必要な投資を実行する
- ◆ 利益率と資産回転率の改善により、資本効率を高めるとともに、財務健全性を維持しつつ、安定的な配当水準の維持・向上を目指す

2023-25年度 キャッシュフロー



株主還元

事業・利益成長による企業価値向上を図るとともに、配当性向30%を目安に安定的かつ継続的な配当の実施に努める
中長期的には、資本効率（ROE）の向上による株主資本配当率（DOE）3%を目指す。

